

科目名	看護形態機能学				
担当講師名	蕪田 麻紀	所属・役職	主任看護教員	資格・免許	助産師
授業形態	講義・演習	単位数・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 学年後期
講義の概要	看護師の役割の一つは、さまざまな健康段階にある対象の日常生活を支えることである。そのためには、日常生活を作りあげている「食べること」「トイレに行くこと」「眠ること」等の生活行動を送るうえで、からだがどのようにこれらを成し遂げているのかを理解し、看護実践できる能力を養う。				
到達目標	1. 何のための生活行動なのかを理解することができる 2. 生活行動を送るためのからだの働きについて理解することができる				
講義回数	単元	講義内容			形式
第 1 回	形態機能学とは 看護実践と形態機能学	看護モデルでの形態機能学の枠組み —医学モデルとの違い— 形態機能学を看護師が学ぶ意義 形態機能学を学んで身につけてほしい力			講義
第 2 回					
第 3・4 回	日常生活行動 「見る」「聞く」 「コミュニケーションをとる」	「見る」ための器官の構造 「見る」の障害と日常生活に及ぼす影響 「聞く」ための器官の構造 「見る・聞く・話す」の障害と生活への影響			講義
第 5～7 回	日常生活行動 「動く」	「動く」が人の日常生活上にもたらす意味 日常生活の基盤である「動く」とは 「動く」の基本となる姿勢と体位 基本姿勢と体位 日常生活行動に関連する体の動き 関節の運動 「動く」の障害が日常生活行動に与える影響			講義 演習
第 8・9 回	日常生活行動 「食べる 1」	食欲 食行動 咀嚼し味わう 飲み込む（嚥下） 何を食べるか 「食べる」の障害と生活への影響			講義 演習
第 10 回	日常生活行動 「食べる 2」	食べ物を消化・吸収する 消化・吸収するための器官の構造 食べ物が消化・吸収される過程			講義 動画視聴
第 11 回	日常生活行動 「トイレに行く」	排尿：尿意、排尿 排便：便意、排便 「排尿」「排便」の障害と生活への影響			講義
第 12 回	日常生活行動 「眠る」	からだのリズム 眠り 睡眠の生理 「眠る」の障害と生活への影響			動画視聴 講義
第 13・14 回	日常生活行動に関わる 身体・生理機能	日常生活行動と身体生理機能の関連性について			GW
第 15 回		発表			発表
教科書等	適宜 資料配布				
成績評価方法	出席、授業参加状況、試験により総合的に評価する				
履修上の留意点	既習の解剖学・生理学の学習内容を踏まえて講義に臨む				
特記事項					

